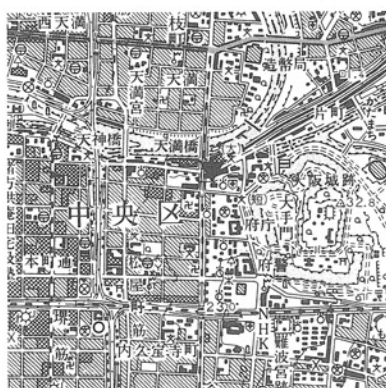


大阪・大坂城跡

おおさかじょう

- 1 所在地 大阪市中央区大手前一丁目・谷町一丁目
- 2 調査期間 OS〇〇―五二次調査 二〇〇一年(平¹³)一月
- 3 発掘機関 (財)大阪市文化財協会
- 4 調査担当者 佐藤 隆
- 5 遺跡の種類 城郭跡
- 6 遺跡の年代 安土桃山時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

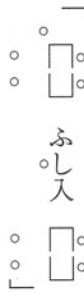




(大坂東北部)

調査地は、豊臣氏大坂城惣構の北端部にあたる。繰り返し行なわれた整地作業とその間にある水成層から、大川に面した低湿な環境を克服するための労力が費やされていたことがわかる。豊臣前期と考えられる遺構面を二面、豊臣後期の遺構面を一面調査した。前者では礎石建物や溝を、後者では四〇㎡の調査区のほぼ全域にわたる大土坑のほか、数基の小さな土坑を検出し

た。豊臣後期の土坑SK一〇二は、南北の肩は検出されたが東西は調査区外に延びているため流路の可能性もある。出土した遺物には土器・陶磁器・木製品・金属製品・石製品・貝・魚骨などのほか多量の部材片や木くずがある。木簡三点はすべてこのSK一〇二から出土している。

8 木簡の釈文・内容

- (1) 「 ふし入 
- 148×73×10 065
- (2) 
- (105)×20×3 019
- (3) 「金将」
- 30×29×12 061

(1)は板の周囲九個所と中央の一個所に釘穴と考えられる小孔があり、箱などに付けられていたと考えられる。

(2)は付札と考えられ墨書があるのは確認できるが、残りが悪く判読は不可能である。

(3)は将棋の駒である。文字は漆で書かれている。

9 関係文献

大阪市文化財協会『近畿興業株式会社による建設工事に伴う大坂城跡発掘調査(OS〇〇―五二)報告書』

(佐藤 隆)